

# 第4次下関市子どもの読書活動推進計画

～未来を担う子どものために～

令和6年（2024年）11月

下関市教育委員会

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。そのため、社会全体で積極的に読書活動に係る環境整備を推進していくことは極めて重要です。

子どもが読書を通して、「知りたい」という探求心を育むことは、学ぶ力を培い、知識を深め、読解力を高めます。文字を通して具体的な情景を想像したり、主人公の気持ちを考えたりと、頭の中でいろいろなイメージを思い浮かべることによって想像力が養われます。また、登場する人物への共感や心情の理解を通じて、他人を思いやる気持ちや感動する心を育みます。子どもが読書習慣を身に付けることは、一生の財産として生きる力となり、楽しみの基となるものです。

下関市では、平成20年（2008年）3月に「下関市子どもの読書活動推進計画」を、平成27年（2015年）3月に「第2次下関市子どもの読書活動推進計画」を、令和2年（2020年）6月には「第3次下関市子どもの読書活動推進計画」を策定し、未来を担う子どものために、子どもが読書に親しむ機会の充実や読書環境の整備に取り組んでまいりました。

このたび、第3次計画で掲げた「下関市に読書の好きな子どもが育つこと」、「子どもが読書への意欲を持ち続ける環境を守ること」の2つの基本目標を引継ぎ、今後5年間の基本方針・施策を示す「第4次下関市子どもの読書活動推進計画」を策定いたしました。社会が変化する中においても、子どもがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動を行うことができるような環境整備を図ることを目的としています。

終わりに、本計画の策定に際しまして、貴重なご意見をいただきました下関市子どもの読書活動推進会議の委員の皆様をはじめ、パブリックコメントやアンケート調査にご協力いただきました関係各位並びに市民の皆様に、厚くお礼申し上げます。

令和6年11月

下関市教育委員会  
教育長 磯部 芳規

## 目次

第1章	第4次下関市子どもの読書活動推進計画策定にあたって・・・・・・・・・・	1
1	計画の目的	
2	計画の位置付け	
3	計画の考え方	
4	計画の期間	
第2章	第3次計画期間における成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1	本との身近な出会いを（環境の整備）	
2	「知りたい」を満足させる本との出会いを（資料の充実と情報発信）	
3	世界が広がる本との出会いを（人材育成とネットワークの強化）	
4	アンケート結果から見た現状と課題	
第3章	第4次計画の基本目標と取組の3つの柱・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
第4章	具体的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
1	本との身近な出会いを（環境の整備）	
(1)	図書館における取組	
(2)	学校における取組	
(3)	その他の施設や民間団体等の取組	
2	「知りたい」を満足させる本との出会いを（資料の充実と情報発信）	
(1)	図書館における取組	
(2)	学校における取組	
(3)	その他の施設や民間団体等の取組	
3	世界が広がる本との出会いを（人材育成とネットワークの強化）	
(1)	図書館における取組	
(2)	学校における取組	
(3)	その他の施設や民間団体等の取組	
第5章	基本目標と目標数値・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25

- 【資料編】 ■策定の経過 ■下関市子どもの読書活動推進会議委員  
■子どもの読書活動の推進に関する法律

# 第1章 第4次下関市子どもの読書活動推進計画策定にあたって

## 1 計画の目的

子どもは読書によって、多くの知識を得たり、多様な文化への理解を深めたりすることができます。さらに、読書を通して探求心や好奇心を育むことは、学習への意欲や向上心を培い、読解力を高め、学ぶ楽しさにつながります。

平成13年（2001年）12月に公布・施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」の基本理念では、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」としています。

本市ではこの基本理念を実現するものとして、平成20年（2008年）3月に「下関市子どもの読書活動推進計画」を、平成27年（2015年）3月に「第2次下関市子どもの読書活動推進計画」、令和2年（2020年）6月には「第3次下関市子どもの読書活動推進計画」（以下「第3次計画」という。）を策定してまいりました。

このたび、第3次計画期間が満了することに伴い、成果と課題を踏まえ、「第4次下関市子どもの読書活動推進計画」（以下「第4次計画」という。）を策定いたしました。この計画では、下関市の子どもが、あらゆる機会と場所において、自主的に読書活動を行うことができるように配慮しながら、読書の楽しさ、大切さを伝え、子どもがよりよく生きていく力を育てることを目的とし、読書活動を推進していきます。

## 2 計画の位置付け

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づいて策定するものであり、「下関市総合計画」及び「下関市教育振興基本計画（下関市教育大綱）」に沿う計画として位置付けます。

また、国の『第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」』及び「山口県子ども読書活動推進計画（第5次計画）」との整合性を図りつつ、下関市における子どもの読書活動の推進の方向性を示すものとして策定します。

### 3 計画の考え方

下関市教育委員会では、読書の好きな子どもが育ち、子どもが読書への意欲を持ち続ける環境を守るために様々な機関と連携・協力しながら、子どもの読書環境の整備を進め、子どもと家庭への働きかけを行うこととし、本計画はその取組を具体的に示すものとしてします。

### 4 計画の期間

本計画の期間は、令和7年度（2025年度）から令和11年度（2029年度）までの5年間とします。

## 第2章 第3次計画期間における成果と課題

第3次計画では、子どもの読書活動の推進に向けた取組について進めてきました。その取組の成果と課題は次の通りです。

### 1 本との身近な出会いを（環境の整備）

1 本との身近な出会いを （環境の整備）	(1)図書館における取組	
	第3次計画における取組	成果
	<p>①アンケート等により、子どもの読書傾向の情報を収集し、子どもたちの期待に応える図書館運営を行います。</p> <p>②子どもと保護者が来館しやすい環境整備を図ります。</p> <p>③児童サービスに関する研修を実施し、司書の資質向上に努めます。</p>	<p>①子どもの読書傾向を把握するため、未就学児から中学生までを対象とした「下関市立図書館の利用に関するアンケート」を実施しました。その中で提案のあった、子ども自身が好きな本を紹介したものを掲示するイベント等を行いました。</p> <p>②児童室について、図書を探しやすく手に取りやすい棚の配置やテーマコーナーなど、利用しやすい棚づくりに努めました。</p> <p>YA（ヤングアダルト）<sup>注1</sup>向けの図書を集めたコーナーでは、中学生・高校生世代のニーズに沿った図書の充実を図りました。</p> <p>③児童サービスに関する研修を実施するとともに、山口県立山口図書館等で開催された児童サービスの研修に参加しました。</p> <p>令和2年度 2回 令和3年度 4回 令和4年度 5回 令和5年度 4回</p>

注1 「YA（ヤングアダルト）」とは、12歳から19歳位の年代で「若い大人」「大人になりつつある人」を指す言葉です。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">1 本の身近な出会いを（環境の整備）</p>	<p>④団体貸出注2サービスを推進し、図書館を利用することが難しい子どもにも本を届けます。</p>	<p>④学校や保育園、幼稚園等への団体貸出を行いました。</p> <p>【学校等への団体貸出冊数】</p> <p>令和2年度 38,235冊</p> <p>令和3年度 38,150冊</p> <p>令和4年度 39,568冊</p> <p>令和5年度 37,012冊</p>
---	---	---

◆その他新たな取組

図書館に来ることが難しい子どもや保護者も、家庭や学校で気軽に本を読むことができる「しものせき電子図書館」サービスを令和5年10月より開始し、市内の小中学校の全児童・生徒に対して電子図書館の利用者IDを付与しました。

- 【電子書籍コンテンツ数】 令和5年度末  
1,217タイトル（内児童書612タイトル）
- 【児童生徒へのID付与数】 17,254人
- 【児童生徒ログイン回数】 55,894回

◆課題

子どもが読書の楽しさを知る身近な場所である図書館において、子どもに本の楽しさを伝えるために、読み聞かせや児童書の知識の習得などの司書のより一層のスキルアップが必要です。

また、子どもが継続的に読書に親しめるよう、学校や幼稚園、保育園等での読書活動を充実するために、団体貸出等の支援を継続することが必要です。

さらに、本を読むことが困難な子どもが利用できる音声読上げ対応の電子書籍を充実させ、電子図書館サービスを継続していく必要があります。

注2 「団体貸出」とは、学校、保育園、幼稚園、地域の団体・グループに、図書館資料をまとめて貸出すること、またその方法。

1 本との身近な出会いを（環境の整備）	(2)学校における取組	
	第3次計画における取組	成果
	<p>①子どもが「行きたい」と思えるよう、学校図書館を整備します。</p> <p>②朝の読書や図書ボランティア等による読み聞かせなど、継続的な読書活動の実施に努め、読書が好きな子どもの育成を目指します。</p> <p>③子どもの自主性を尊重した選書の機会を設け、子どもの読書意欲が向上するよう努めます。</p> <p>④学校司書の確保と資質向上に努め、読み聞かせ等、子どもと本との出会いの時間を設けるよう努めます。</p>	<p>①学校司書や学校図書館担当教員を中心に、季節に合わせた本の展示や掲示等、工夫を凝らした学校図書館整備を進めました。その結果、来館者数も増加しました。</p> <p>学校図書館図書標準冊数 100%を目指し、必要となる予算の確保、執行に努めました。</p> <p>蔵書のデータベース化等による保管図書の整理や寄贈図書の受入等を行ったことにより、冊数が増加しました。</p> <p>廃校となった学校の図書を、希望する学校に配布することで、学校図書を有効に活用することができました。</p> <p>②学校司書未配置の学校がなくなったことで、教員や読書ボランティアと連携した読書活動の様々な取組を実施することができています。</p> <p>③多くの学校で選書会を行い、子どもが読みたい本を入れることで、読書意欲の向上につながっています。</p> <p>④全ての学校に学校司書を兼務配置し、学校司書の研修を充実させることにより、読み聞かせ等、子どもが本と出会う機会を増やすことができています。</p>

◆課題

子どもの年齢が上がるにつれて、読書離れが進む傾向にあります。

【令和6年度 子どもの読書活動に関するアンケート】

◎1か月に1冊も本を読まない

小学校4年生 4%

中学校2年生 15%

◎学校図書館でほとんど本を借りない・借りたことがない

小学校4年生 13%

中学校2年生 78%

学校図書館の収蔵可能な冊数に限りがあるため、物理的に図書標準冊数の達成が困難な学校が存在しています。これらの学校については、図書収納スペースの確保について、空き教室を活用して第2図書室を設けるなど、引き続き対策を検討する必要があります。

古くなった図書等については、計画的に廃棄を進めるなど、図書の使用・保存方法について改善を検討する必要があります。

1 本との身近な出会いを (環境の整備)	(3) その他の施設や民間団体等の取組	
	第3次計画における取組	成果
	<p>①公民館など、地域における読書環境を提供します。</p> <p>②公民館において、子どもの読書活動推進につながる行事等の開催場所を提供します。</p> <p>③地域文庫や家庭文庫等、子どもの読書活動推進のために活動する団体とその活動を支援し、子どもが本と出会うための環境を守ります。</p>	<p>①図書室がある公民館では、図書の閲覧等を行いました。</p> <p>②公民館学級（地域ふれあい活動）で、読書活動に関わる講座を実施しました。（講座名：「楽しい読書とクリスマス会」「おはなしの会」等）</p> <p>令和2年度 4講座 令和3年度 4講座 令和4年度 5講座 令和5年度 5講座</p> <p>③ブックスタート注3事業では、1歳半児健康診査会場の待ち合いの場で、絵本を1冊プレゼントしました。また、ブックスタートの目的と児童館やふくふくこども館等で開催している「おはなしの会」の案内のリーフレットも一緒に渡しました。新下関保健センターでは、親子1組毎に絵本の読み聞かせを行いました。</p> <p><b>【ブックスタート事業】</b> 絵本のプレゼント</p> <p>令和2年度 1,560冊 令和3年度 1,529冊 令和4年度 1,430冊 令和5年度 1,269冊</p>

注3 「ブックスタート」とは、赤ちゃんとその周りの人々が、絵本を介して心ふれあうひとときを持つきっかけとして、絵本を開く「体験」と「絵本」をプレゼントする活動です。下関市では、1歳半健診会場で読み聞かせを行い、絵本をお渡ししています。

◆課題

公民館学級で、読書に関わる講座の回数や、参加者を増やすための工夫が必要です。

ブックスタートの目的である「絵本をとおして親子の心がふれあう時間を持つきっかけをつくる」ということを保護者へ十分に周知する必要があります。

## 2 「知りたい」を満足させる本との出会いを（資料の充実と情報発信）

2 「知りたい」を満足させる本との出会いを（資料の充実と情報発信）	<b>(1)図書館における取組</b>	
	第3次計画における取組	成果
	①子どもの知的好奇心や探求心に 応え、子どもの心の栄養となる本の選 書・収集に努めます。	①子どもが自ら手に取って、次の読書に 繋がるような図書を整備しました。 <b>【子どもの読書活動推進用図書】</b> 注4 令和2年度 購入冊数 499冊 令和3年度 購入冊数 962冊 令和4年度 購入冊数 1,069冊 令和5年度 購入冊数 1,186冊
	②子どもの成長やそれぞれの読書スタ イルに応じた資料提供を行います。	②年齢に応じたブックリストを作成し、 HP掲載等しました。季節や行事など にあわせたテーマコーナーを設置し、読書 案内の充実に努めました。 「年齢別本棚づくりと読み聞かせ支 援」として、親子で楽しむことができるス キンシップ絵本の展示を行い、おすすめ 本リストを配布しました。 「科学道100冊」注5に参加し、児童か ら高校生を対象に科学分野に関する資料 の展示を行いました。
③子どもの知的好奇心を触発するイベ ントや展示、情報発信を行い、それに関 する資料情報を提供することで、子ど もの自らの探求を促進します。	③子どもの知的好奇心を触発、また自ら の探求を促進するイベントを行いました。 「ほんのふくぶくろ」 令和2年度 実施回数1回 令和3年度 実施回数2回 令和4年度 実施回数3回 令和5年度 実施回数3回	

注4 「子どもの読書活動推進用図書」とは、調べ学習用図書や学校・保育園・幼稚園への団体貸出用図書等。

注5 「科学道100冊」とは、理化学研究所と編集工学研究所による、書籍を通じて科学者の生き方や考え方、科学のおもしろさや素晴らしさを届ける事業で、毎年100冊を紹介しています。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 「知りたい」を満足させる本との出会いを（資料の充実と情報発信）</p>	<p>④子どもが自ら情報を収集し、活用する力が育つよう、調べ学習の手助けとなる子ども向けのパスファインダー注6を作成し、広く提供します。</p>	<p>「絵本かるた」          令和2年度 実施回数7回          令和3年度 実施回数5回          令和4年度 実施回数5回          令和5年度 実施回数6回</p> <p>移動図書館車ブックルが小学校や市役所を訪問し、移動図書館の見学や貸出を行いました。</p> <p>令和4年度 訪問回数5回          令和5年度 訪問回数6回</p> <p>図書館見学・職場体験（中学校・高等学校）の受け入れを行い、図書館への興味や関心を持てるように努めました。</p> <p>④図書館利用の子ども向けパスファインダーを作成し、豊北小学校と豊北図書館にて配布しました。</p>
--	--	--

◆課題

子どもの年齢が上がるにつれて、読書離れが進む傾向にあります。特に興味や関心が広がる中学生・高校生世代へ向けた資料の収集と情報発信の方法を検討する必要があります。

また、読書の楽しさや必要性などを理解してもらうために、子どもへの啓発活動を継続していくことが重要です。

さらに、家庭での読み聞かせにつなげるために、より多くの保護者に子どもの読書の重要性と読み聞かせに適した本の情報を周知するための広報の仕方を検討する必要があります。

注6 「パスファインダー」とは、特定のテーマに関する資料や情報をリスト化したり、調べるための手段を紹介したものです。

2 「知らた」を満げせる本の出会いを（資料の充実と情報発信）	<b>(2)学校における取組</b>	
	第3次計画における取組	成果
	<p>①学校図書館図書標準冊数の達成を意識した学校図書館整備を行い、学習に必要な本が備えられるよう努めます。</p> <p>②授業をはじめとするさまざまな学校活動において学校図書館を活用し、子どもたちに親しみのある学校図書館運営を目指します。</p> <p>③学習はもちろん、自主的な研究、自主的な読書のきっかけとなる学校図書館図書展示を行います。</p> <p>④自らの力で探究を進めるための情報リテラシー<sup>注7</sup>教育を行います。</p>	<p>①学校図書館担当教員と学校司書が連携して、必要な本を選定し、整備を進めています。</p> <p>②総合的な学習の時間や社会科、国語科等の授業を中心として、学校図書館の活用を進めています。</p> <p>③各学校図書館で様々な展示の工夫により、読書のきっかけづくりを行っています。特に小学校では、アンケート結果からも、学校図書館を利用している子どもや読書が好きな子どもが多くいることが分かります。</p> <p>【令和6年度子どもの読書活動に関するアンケート】（小学校4年生）</p> <p>◎学校図書館で 本をよくかりる・時々かりる 87%</p> <p>◎本を読むことが 好き・どちらかといえば好き 85%</p> <p>④学校図書館において、複数の資料から情報を集め、活用する学習を通し、自ら探究を進める力を育てています。</p>

◆課題

学校図書館図書標準冊数100%を目指した学校図書館整備を進めてきてはいますが、まだまだ未達成の学校もあります。今後、全ての学校が達成できるよう、計画的に整備を進めていく必要があります。

注7 「情報リテラシー」とは、様々な情報の中から必要な情報を集め、評価し、活用する能力です。情報の取扱いに関する注意等の知識を持つこともこれに含まれます。

2 「知らた」を満げせる本の出を(資料の充実と情報発信)	<b>(3)その他の施設や民間団体等の取組</b>	
	第3次計画における取組	成果
	<p>①公民館などで行うイベントや地域の行事等において、子どもの読書活動推進につながるよう、情報提供を行います。</p> <p>②子どもの探求心が育つ事業実施に努め、子どもの読書活動推進に関わる人や団体への情報発信を行います。</p>	<p>①②「下関市生涯学習まちづくり出前講座(市立図書館)」を、学校や公民館、家庭教育支援チームに周知しました。</p> <p>市内各幼稚園・こども園を対象とした家庭教育学級(生涯学習課主催)、放課後子ども教室において読書に親しむ取組を行いました。</p> <p>家庭教育学級で、絵本の読み聞かせ活動等、読書活動に関わる講座を実施しました。(講座名:「本・子ども・大人～絵本は子育てに役立つの?」「絵本の読み聞かせ」等)</p> <p style="padding-left: 40px;">令和2年度 4講座 令和3年度 2講座 令和4年度 6講座 令和5年度 4講座</p>

◆課題

家庭教育学級で行っている読書活動推進のよい取組を、周知し、広げていくことが必要です。

### 3 世界が広がる本との出会いを（人材育成とネットワークの強化）

3 世界が広がる本との出会いを（人材育成とネットワークの強化）	<b>(1) 図書館における取組</b>	
	第3次計画における取組	成果
	<p>①新しい本との出会いとなるおはなし会の開催を継続します。より多くの子どもと保護者が参加できるよう、ボランティアと協力して進めます。</p> <p>②学校等からの依頼による読み聞かせやブックトーク注8に、司書を派遣します。</p> <p>③ボランティアや学校司書、図書館職員等が語り合う場を設け、子どもたちに本を手渡す活動を担う人材の育成に努めます。</p> <p>④子どもの読書推進に関わる人々の交流を推進し、子どもの読書活動推進ネットワークの強化を図ります。</p>	<p>①ボランティアと協力し、おはなし会を開催しました。</p> <p style="text-align: center;"><b>【おはなし会の開催】</b></p> <p style="text-align: center;">令和2年度 開催回数 22回</p> <p style="text-align: center;">令和3年度 開催回数 22回</p> <p style="text-align: center;">令和4年度 開催回数 59回</p> <p style="text-align: center;">令和5年度 開催回数 160回</p> <p>②学校や児童クラブ等に司書が出向き、読み聞かせやブックトークなど、本の魅力を子どもや保護者に伝える活動を行いました。生涯学習まちづくり出前講座として、学校や児童クラブ等で「図書館員のおはなし会」「図書のオリジナル帯づくり」を開催しました。市役所親子ふれあい広場での「育児講座」にて、おすすめの絵本や図書館の利用方法の紹介を行いました。</p> <p>③④学校司書、公共図書館司書がともに学ぶ研修を実施し、交流を図ることで、団体貸出の利用が促進されました。</p> <p style="text-align: center;">令和4年度「読み聞かせ講座」</p> <p style="text-align: center;">令和5年度「著作権実務研修」</p>

注8 「ブックトーク」とは、特定のテーマに関する数冊の本を、一つの流れができるようなプログラムを組み立て、登場人物やあらすじ等を交えて紹介することです。

◆課題

子どもの読書活動を推進していくうえで、ボランティアとの連携・協力を強化していくことが重要です。

児童サービスについて、専門的な知識の向上のための研修を受講するなど、継続的な司書の育成が必要です。また、研修等を通して、学校図書館の司書教諭、学校司書との連携を今後も継続していく必要があります。

3 世界が広がる本との出会いを (人材育成とネットワークの強化)	<b>(2)学校における取組</b>	
	第3次計画における取組	成果
	①子どもの読書意欲が高まるイベント等に取り組んでいきます。	①学校司書や図書館担当教員、図書ボランティアが連携して、様々なイベント等を実施しています。  (例) 学期始めの図書館オリエンテーション・季節に合わせた本の展示や読み聞かせ・本のお楽しみ袋・図書館クイズ等
	②第3次計画を下関市立の小学校、中学校、高校に周知し、下関市全体の取組を促進します。	②下関市立の小学校、中学校、高校に第3次計画を配布し、周知を図っています。
③学校図書館担当、図書ボランティア、学校司書がともに研修を行い、子どもたちの実態把握と成長過程に応じたさらなる子どもたちへの読書支援に努めます。	③学校図書館に携わる教員・学校司書・図書ボランティアの研修機会を設けたことで、連携して読書支援を行う意識が高まっています。	

◆課題

子どもの年齢が上がるにつれて、読書離れが進む傾向にあることから、成長過程に応じた読書支援を行っていく必要があります。

3 世界が広がる本との出会いを（人材育成とネットワークの強化）	<b>(3) その他の施設や民間団体等の取組</b>	
	第3次計画における取組	成果
	①公民館などで行うイベントや地域の行事等において、子どもの読書活動推進につながるよう、情報提供を行います。	①②「下関市生涯学習まちづくり出前講座（市立図書館）」を、学校や公民館、家庭教育支援チームに周知しました。 家庭教育支援チームで、絵本を活用した子育て講座が行われました。
	②子どもの探求心が育つ事業実施に努め、子どもの読書活動推進に関わる人や団体への情報発信を行います。	
③第3次計画を下関市立の公民館をはじめとする社会教育施設において周知を図り、下関市全体の取組を促進します。	③市内の公民館、生涯学習センターへ第3次計画を配布し、周知を図りました。	

◆課題

市立図書館の出前講座を利用した取組等、公民館学級で読書や本に関する講座を開催するなど、地域で読書の楽しさを伝える活動を行っていくことが必要です。

## 4 アンケート結果から見た現状と課題

下関市の子どもの読書活動の現状を把握し、第4次計画の取組方策へ反映させるため、令和6年5月に小学4年生、中学2年生、未就学児の保護者への「子どもの読書活動に関するアンケート」を行いました。

「本を読むことが好きですか」という問いに対して、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童・生徒は、小学4年生は85%、中学2年生は70%となり、令和元年度に行ったアンケートと比べると、ほとんど変わらない結果でした。

一方、一か月に読む本の冊数については、「0冊」との回答の割合が小学4年生は4%であり、令和元年度に行ったアンケートと比べると変わりありませんでしたが、中学2年生は15%で、前回の18%から減少しています。

一か月に1冊も本を読まないと回答した児童・生徒については、「本を読むことが好きではない」という回答の次に多いのが、「読みたい本が思いつかない」「本を読む時間がない」という回答でした。

また、学校図書館の利用についても、小学4年生では87%の児童が本の貸出を利用していますが、中学2年生では利用する生徒が22%となっています。前回と比べると増加していますが、「利用しない」と回答した中学生にその理由を聞いた設問では、「読みたい本が思いつかない」「本を読むことが好きではない」といった回答が多くありました。

このことから、まずは読書が楽しいと思うような取組が必要であり、読書が好きになるきっかけづくりが重要であると考えられます。子どもが本に接する機会をつくることや、読書をする時間の確保、主体的に読書に興味・関心が持てるような取組を強化する必要があります。

質問項目		令和元年度	令和6年度
本を読むことが「好き」「どちらかといえば好き」と答えた子どもの割合	小学4年生	86%	85%
	中学2年生	69%	70%
一か月に読んだ本を「0冊」と答えた子どもの割合	小学4年生	4%	4%
	中学2年生	18%	15%
学校図書館で、本を「よくかりる」「ときどきかりる」と答えた子どもの割合	小学4年生	85%	87%
	中学2年生	16%	22%

未就学児の保護者の回答では、子どもが「本が好き」「どちらかといえば好き」の割合が合わせて90%、読み聞かせをする習慣がある家庭は87%と高い割合でした。

一方で、図書館や地域で行われているおはなし会などに「参加したことがない」と答えた家庭は65%でした。参加しない理由は、「いつどこであるか知らない」「時間や日程が合わない」「忙しくて行けない」との意見が多くありました。

このことから、家庭での読み聞かせにつなげるために、より多くの保護者に子どもの読書の重要性を周知し、子どもと保護者が気軽に参加できると感じられるような取組を考える必要があることが分かりました。

質問項目		令和元年度	令和6年度
子どもが本を読むことが「好き」「どちらかといえば好き」と答えた家庭の割合	未就学児	90%	90%
読み聞かせをする家庭の割合	未就学児	87%	87%
おはなしの会や読み聞かせの会などの子ども向けの行事に「参加したことがない」と答えた家庭の割合	未就学児	52%	65%

### 第3次計画における目標数値とその実施結果

#### 目標数値

項目	第3次計画目標数値		実施結果 (令和元年度)	実施結果 (令和6年度現在)
アンケートにより、本を読むことが「好き」「どちらかといえば好き」と答えた子どもの割合	未就学児	100%	90%	90%
	小学4年生	95%	86%	85%
	中学2年生	80%	69%	70%
一か月に1冊以上本を読む子どもの割合	小学4年生	100%	96%	96%
	中学2年生	90%	82%	85%
読み聞かせをする家庭の割合	未就学児	90%	87%	87%

## 第3章 第4次計画の基本目標と取組の3つの柱

第3次計画の課題及びアンケート結果を踏まえ、第4次計画では、第3次計画で掲げた2つの基本目標を引継ぎ、その目標を達成するために、取組についての3つの柱を掲げ、子どもの読書活動を推進します。

### 基本目標

下関市に読書が好きな子どもが育つこと

子どもが読書への意欲を持ち続ける環境を守ること

### 取組の3つの柱

- 1 本との身近な出会いを（環境の整備）  
家庭、地域、学校等、子どもが過ごす様々な場所で、子どもが本と出会うように、読書環境の整備を進めます。
- 2 「知りたい」を満足させる本との出会いを（資料の充実と情報発信）  
子どもが興味を持ち、読みたいと思う魅力ある本の収集と提供に努め、情報発信を行います。
- 3 世界が広がる本との出会いを（人材育成とネットワークの強化）  
子どもが未知の世界への扉を開き、自分の未来を考えることができる読書のために、図書館、学校、その他の施設や民間団体等が連携・協力し、支援します。

## 第4章 具体的な取組

### 1 本との身近な出会いを（環境の整備）

#### （1）図書館における取組

- ① アンケート等により、子どもの視点に立ったサービスの改善や資料の収集に努めます。
- ② 子どもが立ち寄りやすく、心地よい読書環境づくりに努めます。
- ③ 児童サービスに関する研修を実施し、司書の資質向上に努めます。
- ④ 団体貸出サービスを推進し、子どもが本を手にとれる機会を増やします。
- ⑤ 「しものせき電子図書館」サービスを継続し、子どもや保護者も気軽に本を読むことができる環境を提供します。
- ⑥ 移動図書館を活用し、図書館から遠い地域など、より多くの子どもに読書の機会を提供します。
- ⑦ 読書バリアフリー法の視点に基づき、本を読むことが困難な子どもも読書を楽しめるよう、点字絵本やアクセシブル<sup>注9</sup>な電子書籍等（デイジー図書<sup>注10</sup>、音声読上げ対応の電子書籍等）を収集し、利用しやすい環境づくりに努めます。

#### （2）学校における取組

- ① 子どもが「行きたい」と思えるよう、学校図書館を整備します。
- ② 朝の読書や図書ボランティア等による読み聞かせなど、継続的な読書活動の実施に努め、読書が好きな子どもの育成を目指します。
- ③ 子どもの自主性を尊重した選書の機会を設け、子どもの読書意欲が向上するよう努めます。
- ④ 各学校の実態に応じて、読書活動の推進、学校図書館の環境整備等を進めていきます。
- ⑤ 学校図書館図書標準冊数100%を目指し、必要となる予算の確保、執行に努めます。
- ⑥ 廃校となった学校図書の有効活用に努めます。

注9 「アクセシブル」とは、ここでは、視覚障害者等が利用しやすいという意味。

注10 「デイジー図書」とは、紙の文字情報をデジタル形式の音声（音声デイジーデータ）もしくは文字情報に変換した資料のことです。

### (3) その他の施設や民間団体等の取組

- ① 公民館の図書室など、地域における読書環境を提供します。
- ② 公民館学級（地域ふれあい活動）で読書に親しむ講座を開催し、ホームページ等を活用して読書推進活動を紹介します。
- ③ ブックスタートの目的を十分に周知できるよう、リーフレットだけでなく、保護者へ直接声かけをし、市報や下関市のホームページ等で発信していきます。

## 2 「知りたい」を満足させる本との出会いを（資料の充実と情報発信）

### （1）図書館における取組

- ① 子どもの発達段階に応じた図書や、子どもの知的好奇心や探求心に応え、読書の動機づけになるような図書の選書・収集に努めます。
- ② YA（ヤングアダルト）世代に向けた図書を積極的に収集します。
- ③ 子どもの知的好奇心を触発するイベントや展示、情報発信を行い、それに関する資料情報を提供します。
- ④ 体験（遊び・工作・クイズ等）と読書を結びつけた取組等により、読書に興味のない子どもが読書に親しむきっかけづくりを行います。
- ⑤ 保護者自身が読書の大切さを理解し、家庭での読み聞かせのきっかけにつながるような取組に努めます。
- ⑥ 図書館ホームページや SNS の活用等、ICT<sup>注 11</sup>の活用による情報発信の充実を図ります。
- ⑦ 電子書籍のタイトル数の拡充を図り、電子図書館サービスを充実させます。

### （2）学校における取組

- ① 学校図書館図書標準冊数 100%を目指した学校図書館整備を行い、学習に必要な本が備えられるよう努めます。
- ② 授業をはじめとする様々な活動において学校図書館を活用し、子どもに親しみのある学校図書館運営を目指します。
- ③ 学習はもちろん、主体的な読書活動のきっかけとなる学校図書館の展示を工夫します。

### （3）その他の施設や民間団体等の取組

- ① 家庭教育学級や放課後子ども教室における読書に親しむ活動を実施し、ホームページを活用して情報発信をします。

注 11 「ICT」とは、情報や通信に関する技術の総称。

### 3 世界が広がる本との出会いを（人材育成とネットワークの強化）

#### （1）図書館における取組

- ① より多くの子どもと保護者が参加できるように、本との出会いとなるおはなし会をボランティアと協力して開催します。
- ② 学校等からの依頼による読み聞かせやブックトークに司書を派遣します。
- ③ 学校図書館等との連携を図るとともに、ボランティアや学校司書、図書館司書等を対象とした合同研修会を開催し、子どもの読書環境づくりを支える人材の育成に努めます。
- ④ 子どもの読書推進に関わる人々の交流を推進し、子どもの読書活動推進ネットワークの強化を図ります。

#### （2）学校における取組

- ① 学校・家庭・地域が連携し、子どもの読書習慣の形成に努めます。
- ② 第4次計画を下関市立小学校、中学校、高校の読書活動に関わる関係者に周知し、下関市全体の取組を促進します。
- ③ 学校図書館担当教員、学校司書等の研修を充実させ、子どもの読書活動を支える人材の育成に努めます。
- ④ 市立図書館と連携し、より充実した読書活動を推進します。

#### （3）その他の施設や民間団体等の取組

- ① 家庭教育支援チームやPTAなどの子育て関係機関と情報共有をします。
- ② 市立図書館の出前講座を公民館学級で行い、市立図書館と連携した取組を行います。

## 第5章 基本目標と目標数値

計画の目標年度である令和11年度（2029年度）までに目指す目標数値を設定します。

### 目標数値

項目	目標数値		(令和6年度現在)
アンケートにより、本を読むことが「好き」「どちらかといえば好き」と答えた子どもの割合	未就学児	100%	90%
	小学4年生	95%	85%
	中学2年生	80%	70%
一か月に1冊以上本を読む子どもの割合	小学4年生	100%	96%
	中学2年生	90%	85%
読み聞かせをする家庭の割合	未就学児	90%	87%

## 資料編

### ■ 策定の経過

令和6年 5月 下関市立幼稚園、保育園、こども園の年長児の保護者、下関市立小学校の4年生、  
下関市立中学校の2年生を対象に、「子どもの読書活動に関するアンケート」を  
実施。

令和6年 7月 「第1回下関市子どもの読書活動推進会議」を開催し、計画案について意見聴取。

令和6年 9月 「第4次下関市子どもの読書活動推進計画（案）」のパブリックコメントの実施。  
（期間 令和6年9月10日～令和6年10月9日）

令和6年10月 「第2回下関市子どもの読書活動推進会議」において、計画の最終案について  
確認。

令和6年11月 下関市教育委員会定例会にて議決。

令和6年12月 「第4次下関市子どもの読書活動推進計画」公表。

### ■ 下関市子どもの読書活動推進会議委員

氏 名	所 属 等
会 長 永島 昭雄	元小学校長 元彦島図書館長
副会長 高野 泰裕	下関市立勝山中学校教諭
委 員 岡藤 秀子	百合文庫代表
委 員 貴志 紀代子	くろい文庫代表
委 員 成重 圭子	あかね会代表
委 員 西岡 裕子	下関市立勝山小学校司書教諭

## ■ 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年12月12日法律第154号）

（目的）

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

- 2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。
- 3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

- 2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
- 3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財

政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

## 第4次下関市子どもの読書活動推進計画

～未来を担う子どものために～

策定／令和6年（2024年）11月

発行／下関市教育委員会

編集／下関市教育委員会 中央図書館

山口県下関市細江町三丁目1-1 下関市生涯学習プラザ5階